

3 歳児以上の人間関係について

— 遊びの姿からの考察 —

小澤 登生男

1. 要旨

子どもたちの集団生活の場である幼稚園や保育所、認定こども園等では、集団での生活の場であるがゆえにさまざまな人間関係が繰り広げられている。生活の場といっても数多な場面が認められるが、本研究では、生活の場のなかでも人間関係が見えやすい遊びの場面を注視していくことを目的としている。特に 3 歳から小学校就学前の子どもたちは、どのような遊びをし、どのような遊びの展開がなされているのかを着目して、遊びのなかから遊びの分類について考察していく。方法としては、本学幼児保育学科で学ぶ 2 年生の「幼児の人間関係」の授業においてアンケート調査を行い、それを基に遊び 3 歳児以上の子どもたちの遊びの調査を行った。アンケートを通して連合遊び・協同遊びの姿についてどのような遊びがあったかを調べるものとする。

2. 背景

3 歳を過ぎると、身体を使った運動が活発になるとともに、素早く動くことができ、平衡感覚も発達してくる。また、手先の運動も器用になり巧緻性が高まってくる。その子どもたちは、年齢が上がるごとに成長・発達をして、全身運動や手先を使った遊びの中身も濃いものになっていく。

ミルドレッド・パーテン¹⁾は、遊びの姿を、成長・発達段階によって 6 つに分類している。

発達順に、「何もしない遊び」「一人遊び」「傍観遊び」「平行（並行）遊び」「連合遊び」「協同遊び」となる。

「何もしない遊び」とは、目的もなくブラブラと歩き回ったり、興味のある物を見るなど、文字どおり集団の中で何もしていないように見える状態である。ただ何もしていないように見えるが、いろいろな刺激を受けており遊びに入る前の段階だと言われている。そして「一人遊び」は、相手無しに、一人で楽しんで遊んでいる状態であり、「傍観遊び」は、他の子どもの遊びを見ているだけの傍観の状態、観察する状態である。「平行（並行）遊び」は、同じ空間で複数の子どもたちが、お互いにやりとりをせず類似した遊びをしている状態である。

本研究において着目している「連合遊び」は、同じ空間で複数の子どもたちが、同じ遊びを一緒に行い、お互いにやりとりしながら遊んでいる状態である。平行遊びと異

なる点は、子どもの間に道具の貸し借りや簡単な会話などの交流が見られることである。最後の「協同遊び」は、複数の子どもたちが、共通目標をもって役割分担をしながら、一緒に同じ遊びをしている状態である。子ども同士が遊びの中で役割を分担したり、ルールを守りながら遊んでおり、友だちとの関係が広がり社会性が育まれつつある。

3. 研究方法

本学幼児保育学科で学ぶ2年生の「幼児の人間関係」の授業において、アンケート調査を行った。主たる内容は、学生たちが幼稚園実習や保育所実習のなかで体験した3歳児以上の子どもたちの遊びについてである。3歳から小学校就学前の子どもたちは、どのような遊びをし、どのような遊びの展開がなされているのかを着目して、遊びのなかから遊びの分類について考察していった。

*アンケート調査

＜ ユマニテク短期大学 研究倫理委員会 審査承認（受付番号：23-001） ＞

4. アンケート調査の結果

（1）アンケート調査で出た年齢別の遊びについて種類別に分けると以下の結果となった。

3歳児	<p>＜園庭などでの外遊び＞</p> <p>遊具（ブランコ）、三輪車、砂場遊び、泥だんご作り、鬼ごっこ、かくれんぼ、なわとび、ボール遊び、ドッジボール、ころがしドッジボール</p> <p>＜保育室・教室などでの室内遊び＞</p> <p>ままごと（お家ごっこ・ご飯屋さんごっこ・お店屋さんごっこ・レストランごっこ）、バスごっこ、イス取りゲーム、人形かくれんぼ、プリキュアごっこ、ブロック遊び、パズルブロック（LaQ）、ジオブロック（木製の幾何学的な形が作れる玩具）、ブロックで電車ごっこ、車の玩具での遊び、カプラ</p>
4歳児	<p>＜園庭などでの外遊び＞</p> <p>遊具（上り棒）、砂場遊び、泥だんご作り、鬼ごっこ、イロ鬼、ケイドロ、かくれんぼ、ボール遊び、ドッジボール、ころがしドッジボール、虫取り</p> <p>＜保育室・教室などでの室内遊び＞</p>

	<p>ままごと（玩具・家族ごっこ）、お絵かき、ぬり絵、折り紙、編み物、積み木、ソフト積み木、粘土、ブロック遊び、カプラ、トランプ</p>
5 歳児	<p><園庭などでの外遊び></p> <p>玩具（鉄棒）、砂場遊び、泥遊び、鬼ごっこ、タカ鬼、コオリ鬼、ケイドロ、リレー、なわとび、ボール遊び、ドッジボール、だるまさんがころんだ、だるまさんの 1 日、虫取り</p> <p><保育室・教室などでの室内遊び></p> <p>ままごと（ドーナツ屋さん・サンドイッチ屋さん）、折り紙、積み木、粘土で双六を作る、スライム作り、廃棄物で工作、ビーズ遊び、ブロック遊び、パズルブロック（LaQ）、ダンスショー、トランプ、カルタ、知育玩具（カードゲーム）、UNO（ウノ）</p>
異年齢混合 又は無記入	<p><園庭などでの外遊び></p> <p>玩具（タイヤじゃんけん）、砂遊び、泥だんご作り、どろんこ遊び、鬼ごっこ、コオリ鬼、帽子取り、長なわとび、ドッジボール、だるまさんがころんだ</p> <p><保育室・教室などでの室内遊び></p> <p>ままごと（料理屋さん）、カプラ</p>

（２）アンケート調査の結果からの視点

アンケートの中の具体的な内容の記載を見てみると、

3 歳児クラスの「ままごと遊び」では、「キッチンセットのあるスペースで、4～5 人の人数で料理を作る真似をしていた。メニューもあり注文している姿もあった」とある。

「鬼ごっこ」では、「園庭で 5 人位で鬼ごっこをしており、始めは鬼を決めて他児を追いかけているが、次第に鬼が増えたり、他の遊びに目を向けたりする」とある。

「ブロック遊び」では、「保育室で 5～6 人位でブロックで好きなものを作っていた。一人で遊んでいる子どももいれば、戦いごっこをしている子どももいた」とあった。

4 歳児クラスの「砂遊び」では、「園庭の砂場で、2 人でお互いが別の場所でトンネルを作っている。何か会話をしているが一緒には遊んでいない」とある。

「家族ごっこ」では、「保育室内で 5 人の人数で大きなソフトブロックを使って家のイメージを話し合いながら作っていた。子どもたちはそれぞれ、お父さん役・お母さん役・お兄ちゃん役・赤ちゃん役・犬役と次々と役割を決めていった」とある。

「ままごと遊び」では、「ままごとの玩具が近くにある保育室で、3人以上で遊んでおり役の分担や、『入れて』『いいよ』のやり取り、玩具の貸し借りで『これを貸すからこれ貸して』のやり取りもあった」とあった。

5歳児クラスの「知育玩具（カードゲーム）」では、「保育室で5人位でカードゲームをしていた。個人でやったり、チーム戦にしたりしていた」「保育室で5～6人円になってUNO（ウノ）をしていた。カードも子どもが配っていた」とある。

「だるまさんがころんだ」では、「園庭で6～7人で遊んでおり、鬼役は木のところで鬼役を行っている」とあり、一方では、「保育室で3人位で、だるまさん1日をして遊んでいた。だるま役が『だるまさんが寝た』と言うと、それ以外の子は寝たポーズをする遊びであった」とある。

「ケイドロ」では、「園庭で20人がケイドロで遊んでいた。警察役をやりたい子が泥棒を追いかけていた」とあった。

異年齢混合の「鬼ごっこ」では、「園庭で4人で鬼ごっこをしようとしていたら、『入れて』と皆に伝えて、『いいよ』と返事をして何人か増えていった。3歳の子は、私（実習生）に向かって『鬼さんおいで～』とやっていたので、私と2人で遊んでいる感覚なんだろうと感じた。4～5歳の子は、友だちも含めて遊んでいる」とあった。

5. 考察とまとめ

アンケートの中の具体的な内容の記載からは、この年齢だからといって、「連合あそび」と「協同遊び」の大きな違いは見られない。しかしながら例えば「鬼ごっこ」の例を取ると、3歳児では、始めは鬼ごっこをしているが、次第に鬼が増えてルールが違って来たり、他の遊びに目が行き、鬼ごっこが続かなくなってしまう事例があった。4歳児5歳児になると、鬼ごっこは発展した遊びとなり、「イロ鬼」や「タカ鬼」、「コオリ鬼」、「ケイドロ」というルールのある遊びができるようになることが見受けられる。

また、「家族ごっこ」や「ままごと遊び」は、4歳児では、役割分担や物の貸し借りができる場面も見受けられた。そして5歳児では、ルールのある遊びの一つである「だるまさんがころんだ」や、さらに発展系の「だるまさん1日」と遊びが膨らんでいった様子も見受けられる。カードゲームにおいてもトランプから、カルタ、知育玩具（カードゲーム）、UNO（ウノ）などとルールが複雑になった遊びができるようになることも見受けられた。

以上、このように年齢が上がるにつれての「連合遊び」・「協同遊び」の様子を窺い知ることができたことは大きな成果であった。

6. 謝辞

本研究を進めるに当たり、ご協力いただきました本学の先生方と学生の皆様に謝意

を表します。

< 注釈 >

- 1) ミルドレッド・パーテン (1902-1970 年) は、アメリカの社会学者。1929 年に発表した研究論文により、幼児期の子どもが遊びに参加していく 6 つの発達段階を示す。

< 参考・引用文献 >

遊び学遊邑舎 (あそびがくのゆうゆうしゃ)・遊び事典

<http://yuuyuu-sya.a.1a9.jp/> (2023, 12, 8 閲覧)

保育ふぁん! <https://hoikufun.com/> (2023, 12, 8 閲覧)

菊地篤子 ワークで学ぶ保育内容「人間関係」 pp59-72 株式会社みらい 2022 年

資料1 アンケート調査用紙

3歳児以上の人間関係についてのアンケート

番号

名前

目的：3歳児以上の遊びについて、どのような遊びの展開がなされているか、学生の保育実習や幼稚園実習の中から、アンケートを通して調査することを目的とする。

*アンケート結果は、論文の資料として匿名で使用するものであり、上記目的以外は使用しません。

アンケート調査に同意する チェック ☐

*同意のチェック後も、同意の意思を撤回することができます。

◎保育実習・幼稚園実習で、3歳児以上の子どもたちとの関わり（遊び）思い出してください。

<質問>

○3歳以前までは、一人遊びや傍観遊び、平衡遊びなどの遊びの姿が見られました。

今までの保育実習や幼稚園実習の中で、3歳児以上の子どもたちの連合遊び・協同遊びの姿についてどのような遊びがあったか、具体例を記入してください。

(今日の授業プリントの中の、連合遊び・協同遊びの例を参考にしてください)

具体例1

○で囲んでください	保育園	・	幼稚園	・	思い出せない
○で囲んでください	3歳児クラス ・ 4歳児クラス ・ 5歳児クラス ・ 自由遊びの混合で				
どのような遊び（かくれんぼ、ままごと遊びなど）					
具体的な内容（どこで、何人くらいで、何をしてどうなったかなど）					
その場面で、保育園や幼稚園の先生との関わりがあったなら関わり方を記入してください					
実習生（自分）と関わりをしたなら関わり方を記入してください。					